



めざすべき将来像 (最終的なめざす状態:概ね10~20年間に念頭に設定)

しっかりしたセーフティネットのもと、みんながお互いに思いやり支えあい助け合えるまち

現状・データ

・令和2年度に大阪市が実施した「人権問題に関する市民意識調査」において、今の大阪市は、市民一人ひとりの人権が尊重されているまちであると思うか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合は60.1%。

区内の外国人住民の国籍別内訳 (R4年3月末時点)

	外国人住民人口	割合
韓国・朝鮮	19,619人	74.7%
ベトナム	2,711人	10.3%
中国	2,652人	10.1%
ネパール	266人	1.0%
台湾	211人	0.8%
フィリピン	193人	0.7%
その他	797人	3.0%
総計	26,256人	100.0%



区内における主な外国人住民数の増加率 (H30年と比較)

	H30	R3	増加率
ネパール	165人	266人	161.2%
フィリピン	139人	193人	138.8%
インドネシア	81人	110人	135.8%
ベトナム	2,085人	2,711人	130.0%
タイ	38人	42人	110.5%
中国	2,489人	2,652人	106.5%
米国	83人	80人	96.4%
韓国・朝鮮	21,777人	19,619人	90.1%
スリランカ	45人	37人	82.2%
台湾	362人	211人	58.3%

※ネパール、フィリピン、インドネシア国籍が増加している (住民基本台帳データより)

経営課題 I

安全・安心を身近に感じて暮らせるまち:人権・多文化共生編

主なSDGsゴール



めざすべき将来像（最終的なめざす状態:概ね10~20年間を念頭に設定）

しっかりしたセーフティネットのもと、みんながお互いに思いやり支えあい助け合えるまち

現状からみた要因と課題

要因

- ・社会経済状況とともに人権をめぐる状況も変化しており、プライバシーや新型コロナウイルス感染症に関する問題など、人権課題が多岐のテーマにわたっている。
- ・外国につながる住民については、韓国及び朝鮮籍の減少傾向が続き、代わってベトナムなどこれまでとは異なる多種多様な国・地域の住民が増加している。
- ・外国につながる住民向けの情報発信や庁内案内表示、各種制度のパンフレット、チラシなどが多言語化が不十分で、防災情報や生活必須情報が必ずしも伝達できていない。
- ・行政や地域において、外国につながる住民の属性、居住実態やコミュニティの形成状況など詳細情報を把握しきれておらず、外国につながる住民との「つながり」を持つ機会が少ない。

課題

- ・従来の人権尊重・人権擁護への取組に加え、LGBTQへの認識と理解、ヘイトスピーチなど多様な人権課題への取組が必要である。
- ・生野区では、かねてより在日韓国・朝鮮籍住民の割合が高かったが、近年はニューカマーと呼ばれる新たに来日した外国につながる住民の人口が増えており、外国につながる住民だけでなく全ての住民が多様な言語や文化、価値観、生活様式を相互に理解し、外国につながる住民が安心して暮らせる環境づくりが必要である。
- ・外国人にとってわかりやすい情報発信、案内表記を行うことが不可欠である。
- ・行政機関及び地域団体は、区内の外国につながる住民の属性や居住エリア、コミュニティの形成状況など生活実態の把握に努めると同時に、区内に住む日本人と外国につながる住民が互いの生活様式や価値観、マナーなど、相互理解に向けての取組を進めるとともに、日常的な相互交流を行うことを促進し、外国につながる住民が区内地域コミュニティに参加しやすくするための環境づくりを行う必要がある。

めざす状態（概ね3～5年間で念頭に設定）

区民参加・参画による人権課題の解決に向けた施策の展開により、すべての人々の人権が尊重され、日常的に地域社会の一員として暮らすことができている状態

戦略（中長期的な取組の方向性）

- ①人々の多様性を尊重し、認めあえる環境づくり
一人ひとりの人権が尊重され、誰もが住みやすいまちをめざし、より地域に根ざした啓発活動を地域住民と協働して進めていく。
- ②外国につながる住民が安心して暮らせる環境づくり
 - ・外国につながる住民だけでなくすべての住民が様々な国籍の住民の生活様式や価値観、マナーなどの相互理解に向けての取組を進めるとともに、区内地域コミュニティに参加しやすくするための環境づくりに取り組む。
 - ・日本語習熟度に応じて、多言語や「やさしい日本語」を用いた様々な広報媒体でわかりやすい情報発信を行うことで、平常時から災害等の非常時に至るまで不便を感じることなく安心して生活できるような環境づくりに取り組む。

アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	アウトカム指標の達成状況				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
区民へのアンケートで生野区は外国につながる住民・障がい者・高齢者・子どもをはじめとする多様な人々の人権が尊重され、人にやさしいまちであると感じると回答した割合：令和8年度（2026年度）までに80%以上	74.7%				
区民へのアンケートで生野区は、外国につながる住民が地域住民の一員として安心して暮らすことができるまちであると感じると回答した割合：令和8年度（2026年度）までに60%以上	未測定 （変更）				

具体的取組へ

具体的取組 1-5-1

人々の多様性を尊重し、認めあえる環境づくり

計画(取組内容)

R3決算額(190千円) R4予算額(1,310千円) R5算定見込額(1,042千円)

取組によりめざす指標

◇一人ひとりの人権が尊重され、誰もが住みやすいまちをめざし、より地域に根ざした啓発活動を地域住民と協働して実施する。

- ・地域人権講座の開催
- ・人権週間期間における啓発事業の開催や未来を担う子ども達への人権啓発の実施
- ・生野区人権啓発推進員連絡会との連絡調整会議の開催
- ・人権啓発推進員研修の開催
- ・人権啓発事業の区民への周知として人権啓発広報紙『ふれ愛』の発行
- ・区事業(イベント等)での啓発物の配布や、区民ギャラリーでの人権啓発パネル等展示の実施



地域人権講座

地域人権講座及び人権週間啓発事業の参加者アンケート:理解度90%以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

具体的取組 1-5-2

外国につながる住民が安心して暮らせる環境づくり

計画(取組内容)

R3決算額(495千円) R4予算額(1,118千円) R5算定見込額(495千円)

取組によりめざす指標

◇防災や基本生活情報の多言語表記及びやさしい日本語による情報発信の促進(通年)

- ・「やさしい日本語」区公式Facebookによる情報発信
- ・Twitterによる「やさしい日本語」および多言語での情報発信
- ・広報紙からの情報を多言語で発信



◇各種団体(NPO法人など)、区内民間施設(日本語学校など)、外国人コミュニティとの連携強化

◇交流機会の提供、人材の発掘・育成

- ・「やさしい日本語」をきっかけとしたコミュニティづくり支援

◇地域イベントの開催

- ・区民まつりにおける多文化共生ブースの設置(年1回)
- ・多文化共生に向けた当事者・支援者による自主的な取組への支援



区役所による情報発信が外国につながる住民に対しても配慮されていると回答したと回答した区民の割合:50%以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

経営課題2

にぎわいというどり豊かな魅力のあるまち

主なSDGsゴール



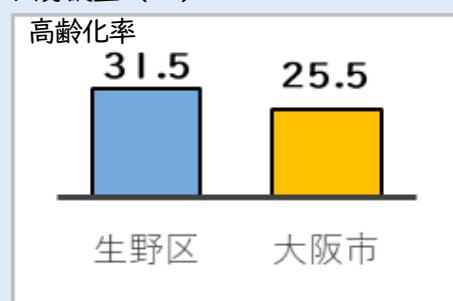
めざすべき将来像（最終的なめざす状態：概ね10～20年間に念頭に設定）

生野区のまちに魅力的な人・富・場が集積して循環し、その流れがまた新たな産業を創出し、好循環している状態

現状・データ

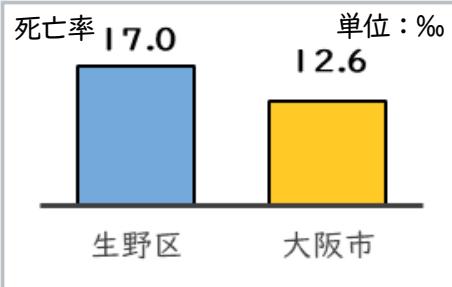
国勢調査 (R2)

単位：%



大阪市推計人口年報 (R4)

単位：‰



区の製造業の事業所数・従業員数の推移



【平成11年工業統計調査・平成28年経済センサス活動調査より】

- ・大阪コリアタウンには、年間約200万人の方も訪れている。
- ・大阪・関西万博が2025年の開催を控えている。

- ・令和元年6月に策定にした「生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想」に基づき、もと御幸森小学校、もと生野小学校、もと生野南小学校、もと林寺小学校の跡地活用事業者が決定。

めざすべき将来像（最終的なめざす状態：概ね10～20年間で念頭に設定）

生野区のまちに魅力的な人・富・場が集積して循環し、その流れがまた新たな産業を創出し、好循環している状態



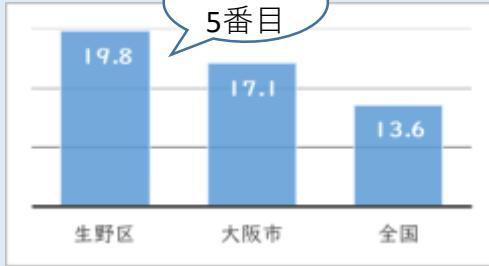
現状・データ

【H30住宅・土地統計調査より】

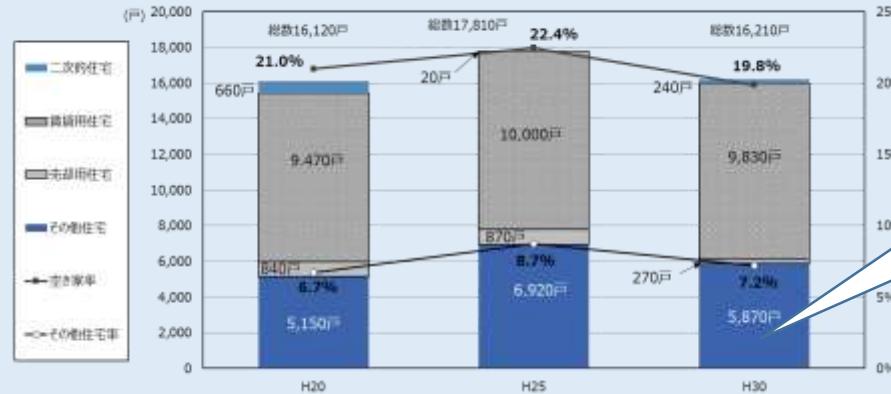
空家率

単位：%

24区中
5番目

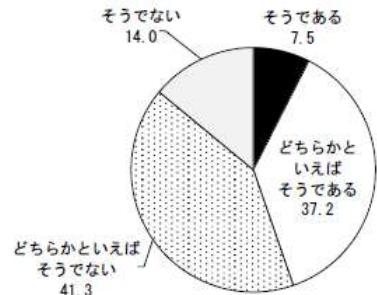


生野区の空き家状況



不動産市場に
流通しない空家
数
24区中1位

【令和3年度区民アンケートより】
Q.あなたは、生野区のまちが「訪れたい、住みたい」と感じられるような魅力あるまちだと感じますか。



- ・BRTの社会実験(いまざとライナー)開始(平成31年4月～)
- ・オンデマンドバスの社会実験開始(令和3年3月～)



めざすべき将来像（最終的なめざす状態：概ね10～20年を念頭に設定）

生野区のまちに魅力的な人・富・場が集積して循環し、その流れがまた新たな産業を創出し、好循環している状態

現状からみた要因と課題

要因

- ・大阪・関西万博は、「未来社会の実験場」をコンセプトに、万博会場を新たな技術やシステムを実証する場と位置づけられており、世界各地より、約2,820万人の来訪者が見込まれている。
- ・景気の影響や、住工混在による問題・後継者不足などにより、高度な技術を持つものづくり・製造業の事業所数・従業員数の減少が続いている
- ・学校は地域コミュニティの場だけでなく、防災拠点としての機能を有している
- ・市場に流通していない空家が多く、建物老朽化が進んでいる。
- ・赤バスの廃止等により交通不便地域が存在している。
- ・高齢人口の増加による死亡率が増加している。
- ・少子化にともなう若年層の減少により出生率が低下している。
- ・生野区にはいまだ発掘・浸透されていないまちの魅力が存在する。
- ・住んでいる方が感じている生野区の魅力、子育て層が移り住みたいと思う情報、若者が遊びに来たくなるような情報の発信が十分ではない。

課題

- ・区内には観光地として全国的に有名なコリアタウンがある他、2025年に大阪・関西万博の開催が予定されており、区全体としても開催に向けた機運醸成を高めるとともに、開催時には多くの人・富・新技術が大阪に集中することが見込まれることから、これらを素通りさせずに、万博後も見据えて生野区のまち全体に取り込んでいくことが必要である。
- ・生野区の重要な地域資源のひとつであり、企業や地域と連携してものづくりの重要性の周知・理解が必要である。
- ・近年のものづくり市場の急速なグローバル化に対応できるよう、新たなアイデアやノウハウのもと、企業や地域と連携した産業振興の必要がある
- ・学校再編に伴って生じた学校跡地について、防災拠点や地域コミュニティ機能を備えつつ、周辺エリアも含めたまちの活性化につながるよう持続可能な跡地活用が必要である。
- ・区内にある多数の空き家をまちの地域資源として捉え、有効に利活用が進むよう企業や地域と連携した支援が必要である。
- ・地域の特性や実情を踏まえた安定的な移動手段の確保が必要である。

めざす状態(概ね3~5年間を念頭に設定)

生野区のまちに魅力的な人・富・場が集積・循環し、様々な業種が新たに創業され、好循環している状態

戦略(中長期的な取組の方向性)

①万博を契機にしたまちの活性化

- ・万博に集まる人・富・新技術を素通りさせず生野区で受け止めるため、「まちの熱量を上げる」機運醸成に取り組む。
- ・地域活動、産業振興、地域福祉等各分野の専門家や地域で活躍する住民同士をつなぎネットワークづくりを進め、様々な媒体のもと万博及びまちの魅力を区内外に発信するとともに、各ネットワークが連携して様々な形でイベントを開催する。
- ・住民の移動利便性向上や万博など観光で来られる来訪者の回遊性向上などに資するよう、シェアサイクルの社会実験に向けて取り組む。
- ・区民のICTリテラシーの学習機会の促進、シニア世代へのスマートフォン普及のため、「人生100年時代のシニアスマートシティ」に向けた取り組みを進める。

②ものづくり生野のポテンシャル

- ・日本の発展を支えてきた高度でポテンシャルの高い技術力を持つ区内のものづくり企業への認知と魅力を高めるとともに、時勢に即した新しいアイデアを持つ海外ベンチャー企業等をつなげることにより、区内ものづくり企業のグローバル化や新製品の開発・受注による産業振興を図るとともに、新たな担い手の確保と技術の継承にもつなげていく。

③学校跡地を核としたまちの活性化

- ・学校再編により閉校となった学校施設に避難所機能と地域コミュニティ機能を備えつつ、「みんなの学校」をコンセプトに、民間事業者の多様なノウハウを活かした持続可能な跡地運営を図りながら新たなにぎわいを創出し、まちの活性化が地域のみならず周辺エリアにも波及することで、生野のまちの再生につながるよう進めていく。

④「空き家」「空きスペース」を活用したにぎわい創出

- ・長屋をはじめとした古民家の空き家が多いという生野区の特徴を生かし、新たな活用に向けたリノベーションや空き家・空きスペースを有効利用したにぎわいの場づくりなど生野のまちの活性化に向けてにぎわいを生み出していく。

⑤持続可能な地域公共交通の推進

- ・交通不便な地域における安定的な交通手段の確保のため、現在社会実験中のBRT(いまぎとライナー)やAIオンデマンドバスの認知度向上と利用促進に向け、運行事業者や地域と連携しながら取り組む。
- ・住民の移動利便性向上や万博など観光で来られる来訪者の回遊性向上などに資するよう、シェアサイクルの社会実験に向けて取り組む。

めざす成果及び戦略2-1

リノベーションまちづくり

アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)	アウトカム指標の達成状況				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
区民へのアンケートで生野区のまちに地域の賑わいや活気が出てきたと回答した割合:令和8年度(2026年度)末までに60%以上	未測定 (変更)				
空家の活用意向がある所有者の割合:令和7年度(2025年度)末までに90%以上を維持	未測定				

具体的取組へ

具体的取組 2-1-1

万博を契機にしたまちの活性化

計画(取組内容)

R3決算額(一千円) R4予算額(一千円) R5算定見込額(9,000 千円)

取組によりめざす指標

◇まちの熱量を上げ、万博の機運醸成のため、ポータルサイトを構築・運用し、万博及びまちの魅力を発信

ポータルサイトの構築し、運用を開始

◇各分野の専門家や地域で活躍する住民同士をつなぐネットワークづくり・連携強化イベントを開催
(想定するネットワーク)

- ① 既存飲食店・物販ネットワーク
- ② 新規店舗誘致のための空き家活用専門家ネットワーク
- ③ ものづくり企業の製品開発・生産等の連携ネットワーク
- ④ 観光案内的情報発信ネットワーク
- ⑤ まちの楽しい日常のロコミ情報ネットワーク

イベント参加者満足度:70%以上

◇ICTリテラシーの向上を図るため、区民向けスマホ教室の開催支援や広報協力

サイクルポート数:前年度以上

◇来訪者の回遊性の向上に資する新たな交通手段としてのシェアサイクルの推進に向けた実証実験のため、区内にサイクルポートを設置(随時)

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

具体的取組 2-1-2

ものづくり生野のポテンシャル

計画(取組内容)

R3決算額(0千円) R4予算額(-千円) R5算定見込額(7,058千円)

- ◇ものづくりに関する高い技術力を持つ生野区内の町工場と時勢に即した新しいアイデアを持つ海外ベンチャー企業等をつなげるにより、区内の町工場のグローバル化や新製品の開発・受注による産業振興を図り、地域の活性化につなげていく。
- ◇次世代育成を目的としたイベントを開催する。
 - ・ものづくりの楽しさや大切さを実感してもらうために、企業・教育機関・地域団体などと連携したイベントの開催
 - ・ものづくり企業に対する理解を深め、魅力発信につなげる取組みとして、区内小中学校等と連携し、区内ものづくり企業への見学会を開催
- ◇ものづくりのまち生野をPR・HP、広報紙、各種イベントを通じて「ものづくり百景」を周知



イベント(ものづくり百景コーナー)

取組によりめざす指標

町工場のネットワークの輪が広がったと感じると回答した事業者の割合:50%以上

次世代育成を目的としたイベント実施回数:前年度実績以上

区役所ホームページのものづくりページのビュー数:前年度実績以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

具体的取組 2-1-3

学校跡地を核としたまちの活性化

計画(取組内容)

R3決算額(55,773千円) R4予算額(333,471千円) R5算定見込額(131,045千円)

- ◇生野区西部地域学校再編整備計画の進捗にあわせて、学校跡地を核としたまちの活性化に寄与する跡地活用方法を検討する。
- ◇元年6月に策定した「生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想」を基に、「みんなの学校」「まちぐるみ教育」というコンセプトのもと小学校ごとの学校跡地の利活用の基本計画・事業計画を作成するとともに、活用に向けた施設の商品化作業を実施し、跡地活用の運営に向けた準備に取り組む。
- ◇活用計画案を策定した小学校跡地から順次、活用に向けたマーケットサウンディングを行い、対話により明らかとなる課題や条件を整理したうえで、活用事業者の公募を実施する。



取組によりめざす指標

活用事業者の公募実施:舍利寺小

活用に向けた商品化:舍利寺小

活用計画(案)の策定:勝山小

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

具体的取組 2-1-4

「空き家」「空きスペース」を活用したにぎわい創出

計画(取組内容)

R3決算額(216千円) R4予算額(271千円) R5予算額(2,578千円)

取組によりめざす指標

- ◇地域が主体となった空き家の利活用を推進する団体と連携したセミナー等の開催(随時)
- ◇事業連携協定を締結した企業のプラットフォームを活用した空き家と空きスペースの利活用の促進(随時)
- ◇新たな公民連携による空家や空きスペースの利活用推進(随時)

空き家利活用に関する取り組みが進んでいると感じると回答した区民の割合:前年度実績以上



生野空き家シンポジウム

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

具体的取組 2-1-5

持続可能な地域公共交通の推進

計画(取組内容)

R3決算額(5千円) R4予算額(113千円) R5算定見込額(52千円)

取組によりめざす指標

- ◇区内における公共交通不便地域の解消をめざし、交通弱者はもとより、区民の移動手段の確保、地域活動の活性化を図るため、地域、事業者、行政等が参加する「生野区地域公共交通検討会」などを開催し、持続可能な生野区にふさわしい地域公共交通の導入に向け、認知度・理解度の向上をはじめとした支援を行っていく。
- ◇住民の移動利便性向上や万博など観光で来られる来訪者の回遊性向上などに資するようシェアサイクルの実証実験を実施するとともに、協働事業者と連携してサイクルポートを増設する。(再掲)

「生野区地域公共交通検討会」などにおける「新たな地域公共交通」の認知度・理解度：前年度実績以上

サイクルポート数：前年度以上



地域公共交通検討会

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

めざす成果及び戦略2-2

生野区シティプロモーション～来たい、住みたい、住み続けたいまちへ～

めざす状態（概ね3～5年間で念頭に設定）

生野のまちが子育て世代に選ばれ、若者が活躍でき、そして区民が誇りに思えるまちとなっている状態

戦略（中長期的な取組の方向性）

- ・区民のニーズや区役所の各施策の魅力を整理し、適切なターゲットに適切なタイミングで届ける。
子育て層：職住近接の暮らし・子育て支援の充実・教育環境の充実
若年層：まち歩きの楽しさ・昭和レトロな風景・多文化交流の魅力
中高年層：昭和の時代のなつかしさ・あたたかさ
- ・各施策や地域活動を「生野の魅力」として積極的に発信することで、区内外を問わず、「生野ファン」を増やす。
- ・行政情報に限定せず、地域のまちづくりに関するさまざまな活動主体の取組を紹介し、生野のまちづくりに区民が積極的に参加していることを区民に知ってもらい、区民のシビックプライドの醸成を図る。
- ・官民連携シティプロモーションオープン会議から生まれた団体との事業連携協定にもとづき生野区の魅力等情報発信を行い、シティプロモーションの推進を図る。

アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）

アウトカム指標の達成状況

	アウトカム指標の達成状況				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
区民へのアンケートで生野区のまちに愛着を感じ、これからも住み続けたいと回答した割合：令和8年度（2026年度）末までに60%以上	未測定 （変更）				
若年層の転出（転入）が前年より減少（増加）する状態（令和8年度（2026年度）末までに）	新規				

具体的取組へ

具体的取組 2-2-1

わがまち意識の浸透

計画(取組内容)

R3決算額(18,922千円) R4予算額(23,488千円) R5算定見込額(26,029千円)

取組によりめざす指標

◇生野のまちに誇りや愛着を持ち、生野区を盛り上げるために自主的に活動している区民や団体等を区民に幅広く知ってもらい、区内に「わがまち意識」を浸透させる。

- ・生野区持続可能なまちづくり支援事業をはじめ、生野区を盛り上げるためのさまざまな取組を自主的にやっている区民や団体等の活動紹介・応援(PR協力)等(通年)
- ・生野区マスコットキャラクター「いくみん」ラインスタンプの販売(通年)
- ・区民まつりでの多文化共生ブースの設置(再掲)
- ・多文化共生に向けた当事者・支援者による自主的な取組への支援(再掲)
- ・ICTの利活用などにより、地域課題の解決や魅力の発信を行う企業・団体との連携・支援(随時)



生野区を盛り上げるさまざまな取組が各地域で行われていることを知っているという回答した区民の割合:60%以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

具体的取組 2-2-2

「生野の魅力」を「世界の魅力」に

計画(取組内容)

R3決算額(18,922千円) R4予算額(23,488千円) R5算定見込額(26,029千円)

- ◇子育て層・若年層等、ターゲットごとに生野の知名度・好感度が上がる魅力情報を発信していく。
 - ・広報紙における特集等の作成:年12回
 - ・広報紙をはじめ、区公式ホームページや公式ブログ・Twitterといった各種広報ツールを活用し、まちに魅力を感じるような情報の発信(随時)
 - ・広報紙からの情報を多言語翻訳で発信
 - ・各種施策・イベント等のプレスリリース、メディアへの情報提供(随時)
- ◇「やさしい日本語」区公式Facebookによる情報発信を行う。
- ◇生野区まち情報サイト「いくのぐらし.com」を運営する「(一社)いくのもり」と連携を強化し、生野区の魅力情報等発信を行う。(通年)
- ◇ICTの利活用などにより、地域課題の解決や魅力の発信を行う企業・団体との連携・支援(随時)(再掲)

取組によりめざす指標

各種アンケートにより、広報紙が魅力ある内容になっていると回答した区民の割合:50%以上

提供した情報がメディアで取り上げられた件数:12件以上
(平均して毎月1件以上)

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

めざすべき将来像（最終的なめざす状態：概ね10~20年を念頭に設定）

生まれてから義務教育終了に至るまで「ひとりも取りこぼさない」仕組みにより、子育てしたい、教育を受けさせたいと思えるまち



現状・データ

◆こども・子育て環境

<区内人口の推移(国勢調査)>

単位:人

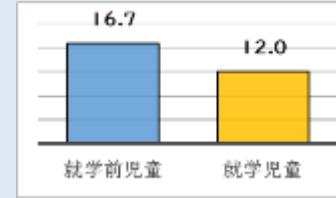
	H17	H22	H27	R02
15歳未満	15,744	14,205	11,982	11,098
15歳以上	122,820	119,804	118,185	116,211
全人口	138,564	134,009	130,167	127,309

<生野区全人口に占める15歳未満人口の割合>

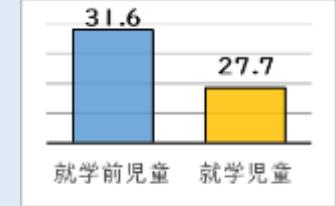


<こども・子育て支援に関するニーズ等調査(平成30年度)>

子育てを「つらいと感じる」「少しつらいと感じる」と回答した人の割合



子育てが地域の人や社会に支えられていると「感じない」と回答した人の割合



<子どもの生活に関する実態調査(平成28年度)>

- ・こどもに絵本を読み聞かせていると回答した人(5歳児保護者)
生野区 55.5%(大阪市平均 63.2%)

<区政に関する区民アンケート>

子育てのしやすいまちであると「感じる」「どちらかと言えば感じる」と回答した人の割合



現状からみた要因と課題

要因

- ・少子化、核家族化が進んでいる中、ニーズ等調査に表れているように、「子育てがつらいと感じる」「子育てが地域の人や社会に支えられていると感じない。」ととらえている人の割合も高く、育児に対して不安やストレスを感じた際に相談できる相手がおらず、孤立化してしまう恐れがある。
- ・様々な理由から親が子に絵本を読み聞かせる機会が少なく、読み聞かせから生まれる親子のコミュニケーションの構築や、想像力・感受性が育まれる機会も少ない傾向にあると考えられる。

課題

- ・少子化が急激に進行している現状を改善し、次世代を担う若い世代を呼び込むためには、区民だけでなく、区外の方々にも安心して子育てのできる環境をアピールすることが必要である。
- ・子育て情報が容易に収集できる環境を整備するとともに、孤立化しがちな子育て世帯が気軽に相談や交流ができるような機会を提供していくなど、細やかな支援が必要である。
- ・積極的に絵本とふれあう機会を提供していきながら、絵本を通してこどもの想像力や感受性を育み、親子のコミュニケーションを高めていくきっかけが必要である。

経営課題3

子育てにやさしく、教育につよいまち

主なSDGsゴール

めざすべき将来像（最終的なめざす状態：概ね10～20年間に念頭に設定）

生まれてから義務教育終了に至るまで「ひとりも取りこぼさない」仕組みにより、子育てしたい、教育を受けさせたいと思えるまち



現状・データ

◆学校教育環境

○令和4年度 全国学力・学習状況調査より

		小6	中3
授業時間以外に全く勉強しない子の割合	大阪市	11.1%	9.1%
	全国	4.2%	4.9%
将来の夢や目標を持っていない子の割合	大阪市	21.8%	35.9%
	全国	20.2%	32.5%
難しいことには挑戦しない子の割合	大阪市	31.5%	35.3%
	全国	27.5%	32.9%

○生野区内の大阪市立小学校 単学級の学年数

	S57年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
学校数	19校	19校	19校	19校	19校	19校	19校	18校	14校
児童数 (人)	14,656	4,606	4,512	4,495	4,503	4,483	4,391	4,330	4,284
総学年数 (学校数×6学年)	114	114	114	114	114	114	114	108	84
単学級の 学年数	0	61	60	62	65	67	68	61	26

(大阪市学校現況調査から)

○学校配置の適正化の取り組み状況

- ・平成28年2月に「生野区西部地域学校再編整備計画」を策定後、令和2年4月に改正施行された「大阪市立学校活性化条例」に基づき学校配置の適正化の取り組みを進めている。
- ・平成31年4月：「桃谷中学校」開校
- ・令和3年4月：「大池小学校」開校
- ・令和4年4月：「小中一貫校大池学園」「義務教育学校生野未来学園」「田島南小中一貫校」開校

現状からみた要因と課題

要因

- ・次世代を担うこともたちが社会環境の多様な変化にも柔軟に対応することができるよう教育環境の充実が求められているが、学校外での学習状況や将来への希望、困難に立ち向かう児童生徒の割合が全国平均と比べ低くなっている。
- ・区内の児童数は、昭和50年代と比べて約70%減少し、学校の小規模化が進んでいた。

課題

- ・さまざまな家庭環境で育つ子どもたちがいる中、未来を生き抜く力を育成するためには、学校内外での多様な学びの機会の充実を図るとともに、特色ある学校の取り組みへの支援が必要と考えられる。
- ・児童の良好な教育環境の確保及び教育環境の充実を図るため、学校配置の適正化が必要である。

めざす状態（概ね3～5年間で念頭に設定）

次世代を担う子どもたちが健やかに育つための環境や相談支援体制があり、安心して子育てができるまちとなっている状態

戦略（中長期的な取組の方向性）

- ① ライフステージに応じた子育て支援の充実
 - ・妊娠期から、保健師との顔の見える関係づくりによる継続した支援を行う。(大阪市版ネウボラ)
 - ・各健康診査や子育て相談時に、発達障がい児またはその疑いのある子を早期に発見し、療育支援に取り組む。
- ② 安心して楽しく子育てができるまちづくり
 - ・身近な地域での子育て支援活動をはじめ、子育てを支援する団体等と連携・協働しながら、まちぐるみで子育てを応援する機運を高め、安心して楽しく子育てのできる環境づくりに取り組む。

アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	アウトカム指標の達成状況				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
区民へのアンケートで子育てしやすいまちと感じると回答した割合：令和8年度（2026年度）末までに60%以上	未測定 （変更）				

具体的取組へ

具体的取組 3-1-1

ライフステージに応じた子育て支援の充実

計画(取組内容)

R3決算額(3,535千円) R4予算額(6,270千円) R5算定見込額(6,316千円)

- ◇妊娠から出産、乳幼児期から就学期にわたる各ライフステージをトータルで支援
- ・妊娠期から、保健師との顔の見える関係づくりによる継続した支援を行う。(大阪市版ネウボラ)
 - ・子育て支援機関等と連携し、適切な機関につなげる。
「生野区子育て支援会議」を開催し、情報共有・事例検討等連携を進める(年6回開催)
 - ・生野区子ども地域包括ケアシステムの運営により、地域団体等の連携を進め、子育て世帯への支援体制強化に取り組む。
- ◇区民が安心して、子どもを産み育てることができる環境づくり
- ・発達障がい児等支援
各健康診査や子育て相談時に、発達障がい児またはその疑いのある子を早期に発見し、療育支援に取り組む。

取組によりめざす指標

健診フォロー教室に参加した養育者について、子どもの養育に参考になったなど肯定的に感じた養育者の割合90%以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)今後の課題と改善策
※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

具体的取組 3-1-2

安心して楽しく子育てできる環境づくり

計画(取組内容)

R3決算額(602千円) R4予算額(1,313千円) R5算定見込額(1,078千円)

◇子育てを支援することに加え、子育てがより楽しくなるような仕掛けづくり

- ・「生きるチカラを育む絵本プロジェクト」
絵本サポーターの発掘・育成
生野区絵本ダイアリー「いくみんのほんだな」の発行
- ・「子育て応援イベント いくのっ子広場」(1回以上開催)
- ・子育て講演会の開催(1回以上開催)

◇まちぐるみ子育て宣言

- ・子育て宣言に沿った「まちぐるみの子育て」の取組の拡大

◇生野のまちで子育てしたくなるよう積極的な情報発信

- ・「生野区子育て情報サイト"いくの de 育~の"」などを活用して、
地域の子育て支援情報などを効果的に発信するとともに、更なる充実を図る。



取組によりめざす指標

- ①「子育て応援イベント いくのっ子広場」
・子育て応援イベント参加者数の平均が前年度実績以上
- ②「生野区子育て情報サイトでの積極的な情報発信」
・生野区子育て情報サイトのアクセス数を前年度実績以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

めざす成果及び戦略3-2

未来を生き抜く力の育成

めざす状態（概ね3～5年間で念頭に設定）

生野のまちで学び育つ子どもたちが、確かな基礎学力のもと、広い視野をもって、社会や人生が変化しても、課題を発見し解決していく力を身につけている状態

戦略（中長期的な取組の方向性）

① 次世代の学校づくり

- ・生野区の教育環境を充実するために、区における産官学と地域の連携を図り、学校ごとに異なる課題や特色に対応した多様性に富んだ質の良い教育支援ができる仕組みを構築し運用する。
- ・学校や保護者、地域の方々など社会全体で協働的にこどもの成長に関わっていく中で、未来を生き抜く力の育成の視点に立ち、これまでも取り組んできた性・生教育やキャリア教育の講師派遣の充実を図るとともに、コロナ禍でも継続できる職業体験などを通して、主体的・対話的で深い学びを目的としたプログラム提供の取組を行う。また、教員が学びあうための環境整備・学校支援・研修など教員の指導力向上の取組への支援を行う。
- ・学校配置の適正化については「大阪市立学校活性化条例」に基づいて引き続き進めていく。

② まちの教育力を上げる

- ・地域の生涯学習活動や生涯学習推進員を支援し、生涯学習に取り組む区民が学習の成果を地域に還元できるよう支援を進める。
- ・子どもが地域の大人に学ぶことで、多世代交流を図ることができるよう進めていく。

アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）

アウトカム指標の達成状況

アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	アウトカム指標の達成状況				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
児童・生徒へのアンケートで難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦したいと思うと回答した割合：令和8年度（2026年度）末までに70%以上	新規				
区民へのアンケートで学校だけでなく、地域でさまざまな学習、体験や交流ができる機会があると感じると回答した割合：令和8年度（2026年度）末までに50%以上	40.2%				

具体的取組へ

具体的取組 3-2-1

次世代の学校づくり

計画(取組内容)

R3決算額(35,148千円) R4予算額(97,346千円) R5算定見込額(85,360千円)

①学び支援事業

・児童の学力状況の把握および自主学習習慣の確立や健康・体力の保持増進を目的に、模擬検定等の受検を学校が活用できる機会を提供する。(区内小学校・義務教育学校 14校)

②民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」(再掲)

・生徒の自尊感情を醸成し、将来の夢や目標を持ち、その実現に必要な「自ら学ぶ力」と自主学習習慣の定着、基礎学力向上のための取組として、民間事業者等による課外授業を行う。また事業者と学校の連携を図り、支援が必要な生徒を適切な支援につなぐ。(7教室)

③生きるチカラまなびサポート事業(再掲)

・「キャリア教育」や「性・生教育」を支援する「生きるチカラまなびサポーター」を学校の要請に応じて派遣する。(区内全市立小学校・中学校・義務教育学校)

④学校適正配置の見直し

・「北鶴橋小学校・鶴橋小学校 学校再編整備計画」に基づき、令和8年4月の再編実施に向け、保護者、地域住民等が参画する「学校適正配置検討会議」において、学校再編に向けて必要な事項の意見聴取を行う。
 ・東桃谷小学校並びに勝山小学校を適正規模にするための計画案の作成をめざす。
 ・学校再編に伴う環境整備
 児童の安全確保のため、児童の安全確保と居場所づくり事業や、通学路の安全対策等を行う。

取組によりめざす指標

①事業実施後アンケートで学習意欲を問う設問について、肯定的な回答をする児童の割合を70%以上

②事業参加前後アンケートで
 ・「勉強へのやる気がある」という設問に対し、肯定的な回答する生徒の割合を増
 ・「1日にどれくらいの時間、学校以外で学習をしていますか」という設問に対し、「30分より少ない」、「全くしない」と回答する生徒の割合を半減

③事業実施後アンケートで「将来の夢や目標はありますか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」といった肯定的な回答をした児童・生徒の割合80%以上

④学校再編整備計画に基づき、学校適正配置検討会議を経て、通学路の安全対策等を決定する

具体的取組 3-2-1

次世代の学校づくり

	今年度の取組実績	めざす指標の達成状況 (「達成」「未達成」「未測定」)		今後の課題と改善策 ※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須
自己評価				

具体的取組 3-2-2

まちの教育力を上げる

計画(取組内容)

R3決算額(658千円) R4予算額(1,079千円) R5算定見込額(919千円)

取組によりめざす指標

◇地域住民間の交流を促進することにより、コミュニティづくりに寄与し、生涯学習の推進を目的として、自主的な講習・講座等の学習機会の提供及び拡充や、文化・学習活動、発表、交流の場の提供を図る。

- ・区生涯学習ルームフェスティバルの開催
- ・生涯学習ルームの開設
- ・生涯学習推進員連絡会との連絡調整会議の開催
- ・生涯学習ルームでの作品発表の場として、区役所等(区民ギャラリー等)での作品展示の実施



生涯学習ルームフェスティバル

生涯学習ルーム参加者アンケートの「区の生涯学習事業で学んだ内容を、地域行事等に活かすことができましたか」の問いに対し「できた」と答えた割合:60%以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価

経営課題4

まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進 (改革の柱4-1)

主なSDGsゴール



めざすべき将来像 (最終的なめざす状態:概ね10~20年間を念頭に設定)

防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態。(令和4年4月 市政改革プラン3.1)

現状・データ

①取組数と自律度の推移

地域活動協議会(まちづくり協議会)による自律的な地域運営に向けて、まちづくりセンターが有する専門的なスキル・ノウハウを活用しながら支援を行ってきたことで、取組の増加や自律度の向上は見られるものの、地域住民の参加が少ない地域や、地域特性に応じた取組が進んでいない地域がある。

②地域活動協議会(まちづくり協議会)の意義や求められる機能の理解

地域活動協議会(まちづくり協議会)の意義や求められる機能の理解度は、令和3年度には準行政的機能(87.3%)、総意形成機能(73.2%)と、まち協構成団体の理解度が前年度と比べ微減しているため、理解促進に向け引き続き取り組む必要がある。



現状からみた要因と課題

要因

- ①地域活動協議会(まちづくり協議会)が形成され数年が経過し、地域による自律の進捗状況の差異が大きくなっていることから、地域によっては最適な支援が行われていないことが考えられる。(現状の①に対応)
- ②地域活動協議会(まちづくり協議会)の意義や求められる機能について、理解を促進するための取り組みが十分ではないと考えられる。(現状の②に対応)

課題

- ①より効果的な支援の実施に向けて必要な見直しを行い、全地域一律ではなく、地域の実情に即した最適な支援を行う必要がある。
- ②地域活動協議会(まちづくり協議会)の意義や求められる機能について理解が深まるよう、積極的な働きかけや情報発信を行う必要がある。

まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進 (改革の柱4-1)

めざす状態(概ね3~5年間で念頭に設定)

防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態

戦略(中長期的な取組の方向性)

まちづくりセンターと協力し、地域活動協議会(まちづくり協議会)の目指すべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細やかな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。

アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)	アウトカム指標の達成状況				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
地域活動協議会(まちづくり協議会)の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合: 令和5年度(2023)末までに90%以上(かつ前年度実績値以上) 令和3年度:89.6%	未測定				

具体的取組へ

具体的取組 4-1-1

まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進(改革の柱4-1)

計画(取組内容)

R3決算額(49,702千円) R4予算額(52,192千円) R5算定見込額(52,270千円)

- ・まちづくりセンターと協力し、地域実情に応じた支援を行うため、地域活動協議会(まちづくり協議会)のあり方や、地域内での課題などについて話し合いを進める会議を開催する。
- ・自治会、町内会単位(第一層)の活動等を支援し、身近な地域でのつながりづくりと地域活動の活性化を図るとともに、市民活動への支援等を通じて、様々な活動主体と地域の連携を促進する。
- ・幅広い世代の住民が地域活動について興味を持ち、地域活動の新たな担い手へとつながるよう、まちづくりセンターと連携し、SNS等を通じて、各まち協の特色ある活動を発信する。さらに、誰もが気軽に参加ができる交流の場の提供や取り組みにより、新たな地域活動の担い手を発掘する。
- ・地域活動協議会(まちづくり協議会)の理事会や会計説明会を通じて、より民主的に開かれた組織運営と会計の透明性の確保の重要性を浸透させる。

取組によりめざす指標

- ①地域活動協議会(まちづくり協議会)の構成団体が、まち協に対し地域の実情やニーズに即した支援が実施されていると思うと回答した割合:前年度実績以上
- ②まちづくりセンターの支援を受けた団体が、支援に満足していると回答した割合:前年度実績以上
- ③地域活動協議会(まちづくり協議会)を知っていると回答した区民の割合:前年度実績以上

今年度の取組実績

めざす指標の達成状況
(「達成」「未達成」「未測定」)

今後の課題と改善策

※指標の達成状況が「未達成」の場合は必須

自己評価